



大森二中だより

令和3年度 大森二中の合言葉「思いやり」
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

令和3年1学期終業式
大森第二中学校
校長 成清敏治
電話 3762-6456

「カーネル・サンダース」＝苦労を力に変える生き方

1学期最後の話として、1人の人物を紹介したいと思います。「白い上下のスーツにステッキ姿。温かな笑顔を浮かべながらお店の前に立っている180cmの等身大の人形」といえば、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。大半の人は、ケンタッキー・フライド・チキンの店の前に置いてある人形…名前は「カーネル・サンダース」その人こそ、ケンタッキーの創業者です。実は彼がケンタッキーを創業したのは65歳でした。今では世界約80カ国、1万店舗を数え、年間に使われるチキンを並べると地球11週分にもなる大企業のケンタッキーですが、彼の幼いころは苦労の連続でした。

父親が6歳の時に死別し、母親はカーネルを含めて3人の子供の面倒を見なくてはできませんでした。カーネルも6歳の頃から家事を手伝い、働きに出ている母親に代わり、料理などを作るようになったそうです。実はそのことが、フライドチキンを発明する大きな影響を与えることになりました。10歳の頃には、小学校に通いながら近所の農場で働くようになりました。しかし、彼の仕事ぶりはのんびりしていたらしく、最初の仕事は1ヶ月でクビになりました。母親がお金に困っていることを知っていたので、彼はなかなかクビになったことを言い出せません。恐る恐るクビになったことを伝えると、母親は本当に悲しそうな顔をしました。カーネルはその時のことを、いくつになっても鮮明に覚えていました。心の底から後悔し、「もう二度と中途半端な仕事をするのはやめよう」と心に誓いました。その後の仕事に生かされ、彼は何度も転職を繰り返しましたが、どの仕事も誠実に懸命に頑張り抜き、様々な人から信頼勝ち取ることができました。

カーネルが12歳の時に母親は再婚します。しかし義理の父との仲が悪くなり、家を出ることになりました。さらにそれが理由かはわかりませんが、中学校も途中で退学。彼の学歴は小学校で終わりました。もちろんそれから独学でいろんなことを学んでいます。苦労を力に変えたこと、弛まず努力を続けたこと、今の皆さんの年代にカーネルは、当たり前でない生活をせざるを得ない状況であったことは、知っておくべきではないでしょうか。彼の生き方を通して学ぶことは、小学校・中学校という義務教育の年代に、人生の土台が築かれていること。その時に決意したことを生涯忘れなかったこと。彼は自分の苦労に翻弄されず、自分の力で人生を切り拓いていき、老後といわれる年代になってから大きな事業を打ち立てることができました。逆転ホームランのような生き方です。

夏休みのしおりに「当たり前毎日に感謝して、2学期を迎えよう」と書きました。明日からの42日間は、新たな自分を発見できる機会になるかもしれません。また、自分の視野を大いに広げる機会にすることもできます。前向きに生きる勇気をもって、自分の可能性を信じる夏休みにしてください。1歩成長ではなく、3歩成長の夏休みにしましょう。

(7月20日 1学期終業式)

